

# 「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

## 学力向上目標

子ども達に対して、

○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。

・ドリル系アプリやスタディ・エッセンス等を活用し、基礎学力の向上を図り、「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「基礎アップ」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回るようにする。

○思考力・判断力・表現力を高める。

・一人1台のタブレット型コンピュータを活用し、個別最適化した学習への取組を実践し、学校評価における児童アンケートで学習に関する質問への肯定的な回答率を前年度より2ポイント上昇させる。

○主体的に学習に取り組む態度を涵養する。

・学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業実践の展開を実施し、「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「児童生徒の活動」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回るようにする。

## 具体的な手立て

- ①「ムーブノート」や「オクリンク」を活用して子ども同士で考えを共有したり、表現したりする授業実践を共有し、タブレット型コンピュータの活用を推進する。
- ②「ドリルパーク」の活用し、子どもが自分の学習内容への理解を把握したり、繰り返し学習をしたりして、基礎基本が定着できるようにする。
- ③タブレット型コンピュータを活用し、自分の考えを形成したり、自分の言葉で表現する力を高めたりできる授業実践を実施する。
- ④子どもが主体となる「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践に取り組む。
- ⑤1回目の「よい授業」児童対象学校アンケート結果を振り返り、教師一人ひとりが実態を把握し、授業づくりの改善を図る。

## 結果

「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「基礎アップ」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回った。

学校評価における児童アンケートで学習に関する質問への肯定的な回答率を前年度より下回る結果となった。

「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「児童生徒の活動」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回った。

## 今年度の振り返り・次年度に向けて

各種アンケート調査の結果から、タブレット型コンピュータにある学習アプリ「ドリルパーク」や従来の学習ドリル等の活用を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得について子どもたち自身が達成感を感じられるように取り組むことができた。また、校内研修のテーマである「個別最適な学び」に向けた授業実践を通して、子どもたちが主体的に学習していると実感する機会を設けることができた。

一方で、子どもたちが自分たちで考えたことを表現する点について、目標値を下回り、努力・改善が必要な結果であった。今年度から配備された一人一台のタブレット型コンピュータの活用を充実させ、子どもたちが自分の考えを形成したり、言葉で発表する以外の表現の仕方を習得したりできるようにする。また、多様な表現方法で自分の考えを形作ったり、アウトプットしたりして他者と共有できるよう授業改善を図っていくことが次年度への課題である。